

WEEKLY SIGNAL

平成30年5月18日(金) 1424号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	5/21(月)	5/22(火)	5/23(水)	5/24(木)	5/25(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.001%	
銀行券	+ 700	トシ	△1,000	△1,000	△1,000
財政他	△4,000	△3,000	△12,000	△1,000	△6,000
資金需給	△3,300	△3,000	△13,000	△2,000	△7,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債償還(変動15年)		国債発行(20年)		
オペ期日	共通担保(全店) △1,900 国債補充供給 + 500 CP等買入 △400				
オペスタート	国債買入 + 10,400 共通担保(全店) + 2,000				
(日本)	貿易統計(4月、財務省)	営業毎旬報告 (5月20日現在、日銀) 基調的なインフレ率を 捕捉するための指標(日銀) 保有する国債の銘柄別残高 (日銀) 国庫短期証券の銘柄別買入額 (日銀)	全産業活動指数(3月、経産省)	日銀の桜井審議委員、 前橋市内で講演	消費者物価指数 (東京都都区5月、総務省)
(海外)	米 アトランタ連銀総裁講演 米 フィラデルフィア連銀総裁講演 米 ミネアポリス連銀総裁講演 G20外相会合 (アルゼンチン・ブエノスアイレス)	米韓首脳会談(ワシントン)	米 FOMC議事録 欧 ユーロ圏製造業PMI (5月、速報値) 欧 ユーロ圏消費者信頼感 (5月、速報値)	米 新規失業保険申請件数 (19日終了週) 米 フィラデルフィア連銀総裁講演 米 NY連銀総裁講演(ロンドン) 欧 ユーロ圏財務相会合 (ユーログループ) 欧 EU財務相理事会	米 ミシガン大学消費者マインド指数 (5月、確定値) 米 クラス連銀総裁、アトランタ 連銀総裁、シカゴ連銀総裁が パネル討論会に出席 パウエルFRB議長がスウェーデン中銀 の会議に出席(ストックホルム)

<インターバンク>

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

日銀当座預金残高は週初383兆200億円から始まり、国庫短期証券・国債買入オペを主因に15日には383兆8,700億円まで増加した。その後は、国庫短期証券・国債発行等により同残高は減少し、382兆7,600億円を越えた。無担保コールON物加重平均金利は、4月積戻最終日である15日までは、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズが強かったことから、14日は△0.034%、15日は△0.036%となった。新積期に入り、ビッドサイドが慎重な調達姿勢となったことで、18日には△0.064%まで低下した。ターム物は1W~2W物で△0.055%~△0.035%、3W~1M物で△0.040%~△0.030%での出合が見られた。18日に総務省により公表された消費者物価指数(全国・平成30年4月分)によると、先月の全国CPI(生鮮食品を除く総合)は、前年同月比+0.7%であった。

<CP>

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

今週の入れ発行総額は約5,500億円で、週間償還総額の約4,200億円を上回った。小型案件中心で、落ち着いた市況であった。週末の発行市場残高は、16兆2,000億円程度になった模様。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、概ねマイナス~0%近辺の出合いであった。15日にオファーされたCP等買入オペ(2,000億円)は、発行環境の低調な動きを背景に、ディーラーの消極的な応札姿勢が見られた結果、レートは前回比低下の△0.007%分となった。来週の償還総額は、約2,700億円となっている。5・10日発行が見込まれ、発行超が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合いであろう。

<TDB>

17日に行われた国庫短期証券1Y第758回債の入札は、最高落札レート△0.1371%(前回債△0.1757%)、平均落札レート△0.1391%(同△0.1796%)と前回債からマイナス幅を大きく縮小。一方、18日に行われた3M759回債は最高落札レート△0.1323%(前回債△0.1222%)、平均落札レート△0.1391%(同△0.1275%)と前回から利回りがやや低下した。セカンダリー市場は3Mが△0.144~0.135%、1Yが△0.144~△0.143%で出合が見られた。来週は25日に3Mの入札が予定されている。

<レポート>

銘柄先決めGCは週初△0.06%~△0.08%から始まった。新積み期入りとなる16日受渡し以降はレートが低下。週後半にかけて△0.135%~△0.155%の出合いが続いた。短期1Y、3Mの発行が重なった21日受渡しでは、△0.10%近辺まで上昇越えた。SC取引では5年134回債と135回債のbidが多く、134回債は週を通して△0.10%台後半~△0.20%台前半。135回債は週初△0.50%近辺の出合い。入札日前は△0.60%台で多く取引された。その他2年386・387・388回債、5年133・134回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349回債、20年162・163・164回債、30年57・58回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。